

Ref Doc 1914

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者 富田健倫

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ツ別紙ノ通  
リ宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス



Ref Doc 1914

一、私ハ富田健治デアリマス。

二、私ハ第二次及第三次ノ近衛内閣ノ書記官長ヲ救シマシタ。

三、昭和十五年（一九四〇年）ノ夏第二次近衛内閣ノ成立後暫ラクシテ私ハ近衛總理大臣ノ命令デ荒木大將ニ内閣参謀ニナツテ数ク様御願ニ参リマシムガ大將ハ断ラレマシタ。

四、荒木大將ガ内閣参議ニ就任スル事ヲ承諾サレナカツタ理由ハ二ツアリマス。第一ハ大政翼賛會ノ設立ニ反対意見ヲ特ツテ居ラレタ事ト第二ハ日獨伊三國同盟締結ニ對シ反對意見ヲ持ツテ居ラレタカラデアリマス。

五、荒木大將ノ大政翼賛會設立ニ對スル反対理由ハ當時ノ政黨人ノ態度ハ必ズシモ感心出來ナイガ世間ヲ噂デハ大政翼賛會ハ政黨ヲナクシテ一黨ニシテシマフ様ニ言ハレル。ソレハ各人各派ノ意見ヲ自由ニ述べル機會ヲ奪ヒ結局獨裁專制ニナル虞ガアル。ソレハ万機公論ニ決スルト仰セラレタ明治天皇ノ御言葉ヤ憲法ノ精神ニ背キ我ガ國体



Ref Doc 1914

ヤ陛下ノ大御心ニ反スル制度トナルト云フ  
ニアツタ。後集會ハ政治結社ガナク公算  
結社タルコトヲ明ニサレヌガ當時ハ世間ニ  
マダ明トナツテ居ナカツタ。從ツテ此意見  
ガ出タ。

六、又日獨伊三國同盟ニ對スル反對理由ハ當時  
ノ日本ノ有力者タチハ獨逸ノ力ヲ買ヒ被リ  
過ギテ居ル許リデナク思想的ニモ獨逸ノ全  
体主義ト我ガ皇道トヲ混同シテ居ル者多ク  
從ツテ三國同盟ノ結果ハ却ツテ眞ノ立場ヲ  
發揮スルニハ誤解ヲ招キヤスクナルトイフ  
大將獨逸ノ精神的見識カラノ反對ト更ニ軍  
專問家トシテノ立場カラ同盟ニヨリ米英  
トノ感情ハ愈々惡化シ其爲メ支那事變ノ解  
決ハ益々困難トナリタトヘ左様ヲ考ヘテナ  
クテモ其ノ爲對米英戰爭ハ不可避ノ狀態ニ  
陷ル公算ガ多クナルカラ絶對ニ拒否スベキ  
デアルトノ意見デアツタ。

七、以上ノ次第デ内問題トシテノ集會、國  
際問題トシテノ三國同盟ハ國家ノ重大問題  
デアル。此重大問題ヲ決定スル相談コソ重



大デアルノニ今ハ兩方共決定サレタ後デア  
 カラ最早意見ノ入ル様モナイ。参議トナルモ  
 無意義トオウヲ示アル。

ハ私ハ之等ノ意見ニ對シ一近衛總理ノ考ヘテ居  
 ラレルコトモ實ハ大將ト全ク同ジデアアル、即  
 チ大政翼賛會ヲナチソ如ク一黨ニシタイ  
 トイフ考ヘノ人ハアルケレドモ近衛公ハソレ  
 ハ幕府ノ再現デアツテ日本ノ國體ニ反スルモ  
 ノダト云フ考ヘデアアル。唯一日モ速カニ支那  
 事變ヲ解決センガ爲ニハ既存ノ政黨デハドウ  
 シテモ駄目デアツテ軍部ヲ抑ヘルタメニハ一  
 大國民組織ニ依ルノ外ハナイ。此ノ國民組織  
 ヲ翼賛會ノ目的トスル所デアアル。又三國同  
 盟ニツイテモ一部ノ人達ノヨウニ之ヲ米英ト  
 ノ戰爭ニモツテ行クナドトイフ考ヘトハ凡ソ  
 反對デ支那事變ヲ速カニ解決シタイ熱望ヲ持  
 ツテ居ラレルノデアツテ根本ノ考ヘハ荒木大  
 將トハ同意見ナノダカラ是非参議ヲヒキウケ  
 テ戴キタイト色々懇談シタケレドモ客觀狀  
 勢ヨリ見テ自信ハナイト終ニ大將ノ了解ヲ得  
 ルニ至ラズ参議就任ヲ承諾サレズ其後近衛公  
 ト荒木大將トノ交友モ私的ニハアツタガ公的  
 ニハ一時中絶状態ニナツタト記憶シテ居マス。

Def Doc 1914



Ref Doc 1914

5

昭和二十二年（一九四七年）二月四日於

極東國際軍事裁判所

供 述 者 富 田 健 治 (印)

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シ

タルコトヲ證明シマス

同日於同所

立 會 人 蓮 岡 高 明 (印)



6

Ref Doc 1914

宣  
書  
書

良心ニ従ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ欺秘セズ又何  
事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

(署名)  
富田健治  
印

